

ガクレポ

「ガクレポ」は、若い世代に市政や市報について、もっと身近に感じてもらうため、大学生が取材やレイアウトなどの記事作成を行った特集記事です。今回は、茨城大学の学生が作成しました。
問合せ 広報戦略課 内線 293

はじめまして！

私たちは、茨城大学工学部都市システム工学科に
在籍している学生です！



會田 美来さん

日々、**建築**分野を中心に学んでいます
今回は、市役所に**新**しくつくられた

「**さくら課**」について、
日立市の**桜**情報とともに紹介します！



小林 令奈さん

ひたち＝『さくら』のまちに！

令和元年設置

未来のために！桜を守る！

さくら課さんに
密着！

さくらのまちづくり

さくら課設置の 背景とお仕事

さくら課は、市の花にも選ばれている「桜」を、今後、何年たっても今のように美しく咲かせることができるように、昨年7月に市役所に新たに設置されました。業務内容は、主に桜の保護・育成、桜を活かしたまちづくりをすることです。

日立市は、工業都市として発展しましたが、その過程で鉱山から排出されるガスにより、農作物や木々に煙害がもたらされました。そこで当時、火山の噴煙にも負けないといわれていたオシマザクラが植栽され、煙害から日立市を守った桜が今に至るまで大切に保護されてきました。さらには、その苗木を育てる技術を活用して、学校、道路などさまざまな場所にソメイヨシノが植栽され、桜の多いまちとなりました。

しかし、その桜も、植栽から60年以上が経過したため、桜の名所であるかみね公園や平和通りの桜のトンネルの樹勢が衰えてきていたり、倒木の危険性が高まったりしています。

そこで、日立市では、そのような課題を解決しようと、さくら課が中心となって、市民や企業の皆さんと協力しながら懸命に取り組んでいます。3月上旬ごろ見頃を迎える日立市固有の「日立紅寒桜」の拠点整備も進めています。

桜のまちとして知名度の向上を図っている日立市ですが、桜が咲くことは当たり前と捉えられていません。そうした現状を変え、歴史ある桜を大切な財産として、市民が誇りを持って育てていく…。そんなまちづくりを日立市は目指しています。



日立のおすすめ！桜スポット

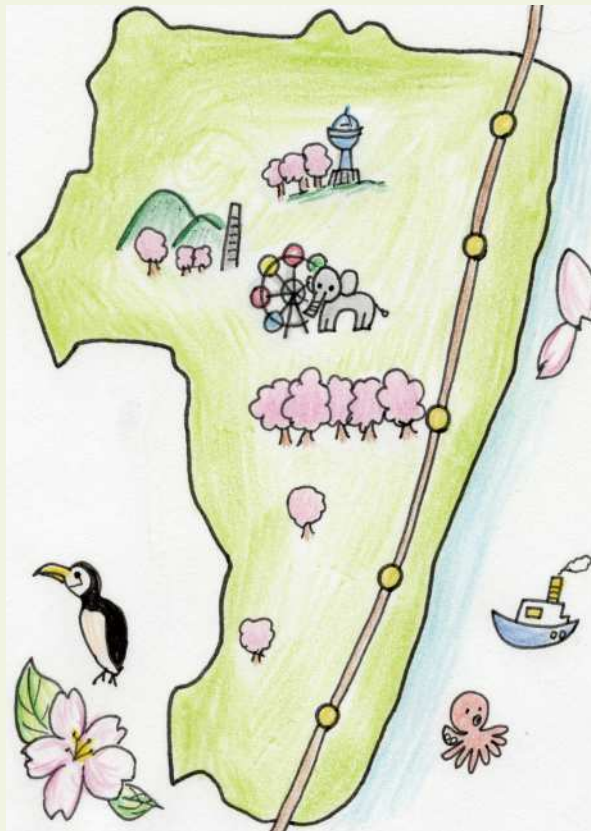
◎十王パノラマ公園

彼岸桜やヤマザクラなど、35種約400本の桜の木があります。3月後半から5月中旬まで花見を楽しめます。



◎かみね公園

公園内の約1,000本の桜は、ほとんどがソメイヨシノで、里桜など珍しい品種もあります。見頃は4月前半です。



◎本山の桜

日立の桜のルーツでもあります。自然環境回復のため、500万本以上のオオシマザクラやスギなどが植樹されました。



◎平和通り

約120本のソメイヨシノが、「桜のトンネル」を作ります。満開になるのは、例年、4月10日前後です。



今後の活動と願い

さくら課では、桜を未来へ残していくために、さくらのまちづくり講演会や、かみね公園の桜を元気にする作業など、さまざまなイベントを実施しています。また、小学校を訪れて、子どもたちが桜について学ぶ機会も作っています。

私たちが、毎年桜を見ることのできるのも、さくら課をはじめとした市の方々や、桜を大切にしてきた市民の皆さんの思いがあるからです。私たち市民一人一人が、「ひたちまちさくら」のイメージを広めていくことで、日立市の魅力を高めることにつながります。今後も宝である桜を残していくため、イベントなどに積極的に参加しましょう！



さくら課の皆さんと

知っていますか？

日立市の固有種『日立紅寒桜』



花の色が淡い紅色で、極早咲きの桜です。3月上旬ごろに見頃を迎えます。

編集を終えて

さくら課の皆さんへの取材を通して、毎年見ることができ、桜の由来や、市と市民、企業の努力の歴史を知ることができました。来月には、さくらまつりも開かれます。まちのシンボルを未来に残していくため、市民全員で日立の桜を守り、育てていきましょう！

